

## 第1回 南陽市自分ごと化会議 議事録

### 1 開会

### 2 市長挨拶

### 3 趣旨説明（南陽市 未来戦略課長）

※関連ファイル「01 趣旨説明資料」参照

- ・「自分ごと化会議」を裁判員裁判に例えて整理した。
- ・皆さんには南陽市の取り組みや困りごとについて一緒に考えていただきたい。
- ・裁判員制度では、裁判官と一緒に有罪・無罪を決める立場だが、自分ごと化会議は、その場での議論が特定の施策を決定するものではなく、あくまでも政策決定の際の判断材料の一つとして取り扱う。
- ・「自分ごと化会議」はまちづくりへの市民参加の第三の手法であると考えます。
- ・今回集まっていたいただいた方々は地域や公共のことに一定の関心があるのではないかと考えている。

### 4 「自分ごと化会議」についての説明（一般社団法人構想日本 石井コーディネーター）

※関連ファイル「02 自分ごと化会議についての説明」参照

- ・構想日本は東京にある非営利の政策シンクタンクであり、自治体との仕事をかなり多く実施している。
- ・自分自身は構想日本のスタッフではなく、普段は神奈川県の子市役所で福祉の仕事をしている。
- ・構想日本の仕事を約 15 年、自分ごと化会議もいろんなテーマで 10 年近く各地の自治体で開催させていただいている。
- ・無作為に抽出された 1,000 名の方のうち 3%の方が参加されているが、このくらいの割合がおおよそ平均の値である。
- ・資料の中のポイントの一つは、p.2 の(2)「地域の課題について、生活から見える現象をもとに住民間で議論する」の中にある「進め方のシナリオは一切作らない」というところ。先に市役所側で結論を用意せず、皆さん一人ひとりが発言することによって会議の方向性が決まり、最終的な報告書につながっていく。私自身も全四回終了後にどうなっているかは全くわからない。
- ・もう一つのポイントは、(3)『個人でできること』『地域でできること』から考える」ということ。普段の生活の中で、それぞれの立場で何ができるだろうかということを考えることが重要。行政や議会にお任せするだけでは日々の生活が成り立たなくなっている。
- ・私が従事する福祉の世界では、30 年ほど前と比べて行政のかかわり方が大きく変わってきている。介護保険が始まって 20 年ほどが経つが、これからはすべてを介護保険のデイサービスに任せるのではなく、比較的元気な方については、地域の方がボランティアで運営しているデイサービスやサロンを利用してもらうということを国は考えている。これも、すべてが役所任せではうまく回らないという事例の現れである。
- ・この会議は、今まであまり行政と接点がなかった方と話をする非常に有効な手段だと考えている。
- ・役所の会議でこうしたメンバーが集まることはまずありえない。この会議の一つの特徴は、女性が多いこと。もう一つの特徴は若い方が多いということ。
- ・いきなりテーマについて皆さんから意見をいただくことは難しいので、まずはベースとなる現状認識

をしてもらいたい。

- ・コーディネーターは議論を進めることが役割となり、時間管理等を行いながら、皆さんができる限り意見を言いやすい環境づくりをする。

- ・ナビゲーターを招致するかどうかははっきり決めていないが、市のテーマを市民の方だけで話し合うと煮詰まってしまうことがある。そんな時に外部の方から話をさせていただくことで、違う角度からものが見えることもあるため、必要に応じて招致する。

- ・市の職員は市の現状や考えていることの説明をしてもらう。全体の進行もお願いしている。

- ・一回目の会議で自己紹介をしながらベースとなる趣旨の理解を行い、二回目と三回目で皆さんに思いつくままに発言をしてもらう。四回目では、皆さんからの意見がある程度集約されたものになるようまとめていく。

- ・四回すべて出席しないといけないというわけではなく、欠席しても話が分からなくなることはない。

- ・皆さんには p.6 に記載のある、改善提案シートを使っていただいて二回目、三回目は意見を出していただく。課題というのは、「現状と理想のギャップ」である。その課題に対して、いくつかの側面からアイデアをいただきたい。必ずしもすべて埋める必要はない。これらの意見をもとに最終的には今回のテーマについて何らかの提案を行う。

- ・「中学校の教育環境」というテーマだと、集まっていた皆さんからするともう関係のないことかもしれないが、この市にとってはこれからの中学校のことを考えるのは非常に重要なことである。ぜひ一緒に考えていただきたい。

## 5 テーマについての説明（南陽市 未来戦略課長）

※関連ファイル「03 テーマ説明資料」参照

- ・中学校の教育環境についてみんなで一緒に考えたい。そのためにまずは南陽市の中学校の現状について知っていただきたい。

- ・令和5年の出生数は150人、平成27年は225人。山形県では一学年につき33人が適正だとされている。ということは、12年後の宮内中学校は全学年が一クラスになることが予想される。

- ・4の表には各中学校の校舎と体育館の築年数を記載。築年数が経過するにつれ、だんだんと悪くなっていくものなので、皆さんが中学生の頃に学校の中で壊れている部分もあったのではないだろうか。

- ・下の表には、小学校の生徒数の推移を参考に記載。中川小学校と荻小学校が途中から空欄になっているのは統合によるもの。

- ・これから中学校の教育環境について考えていただくことになるが、環境とは大きく分けて三つに分類されるのではないかと考えている。まずは「勉強の環境」。GIGAスクール構想やプログラミングなど、勉強の環境は近年大きく変わってきていると言える。二つ目は「生活の環境」。子どもにとって朝に登校して勉強したり食事をしたり部活をして生活をする場所となる。最後に「経営の環境」。そもそもの建物の環境や先生方との関係、南陽市の地域総合型教育のように、地域とのかかわりなども含めての学校の経営環境のことが挙げられる。

- ・今回は「中学校の教育環境を考える」ということで広いテーマを設定したが、ぜひこれらのいろんなことについて皆さんの経験や考えをもとに、これからの南陽市の中学校の教育環境をどうしていけばいいかということを一四回の会議で聞かせていただきたいと考えている。

## 6 全体協議（石井コーディネーター）前半

・自己紹介(名前、お住まいの地域、どんな人か(職業や趣味など)、テーマについての一言、参加動機)

## 7 全体協議（石井コーディネーター）後半

(石井コーディネーター)

後半の最初のテーマは「南陽市の中学校(中学生)のここがいい」という話題についてお話ししていただきたい。

(委員自由発言)

自分が通っていた宮内中学校のことについてだが、比較的新しく造られた校舎だったため夏はエアコンが、冬にはヒーターがついていて、高校生になってから母校の学習環境が良かったことに気付いた。

(石井コーディネーター)

卒業してからしばらくたっている方はそういうことをご存じでない方もいらっしゃるはず。共有の意味も含めてお話ししていただきたい。中学校自慢でも OK。

(委員自由発言)

子どもが通っている赤湯小学校のことについて。40年前は各教室が区切られていて、クラス間での移動がしづらく閉塞的な印象だったが、今の赤湯小学校は教室と廊下の間に壁がなく、ほぼ教室が繋がっている環境にある。休み時間など、子どもたちの交流の時間にはとてもいいんじゃないかと親の目線から感じる。また、授業参観の際にも、自分の子どもが誰と仲がいいのかなど、外から見るができる。赤湯中学校はかなり古いようだが、そんな環境になればいいなと感じた。

(委員自由発言)

市内の中学校では、合唱コンクールや運動会など三校合同で行う行事がある。

(委員自由発言)

赤湯中学校で応援クラスマッチという応援合戦が続いていること、三校合同の運動会は現在中止中だが、代わりに沖郷中学校では沖中杯というものを企画しており、学校独自の行事に対する生徒たちの取り組み、伝統を大切に作る姿勢は評価できるのではないかと考える。

(委員自由発言)

南陽市の中学生のここがいいと思うポイントについてだが、横断歩道を渡った後に一度立ち止まってこちらの方(ドライバー側)を向いてお辞儀をしてくれるということが挙げられる。

(石井コーディネーター)

その話は初めて聞いた。それはそういう指導をされているのだろうか。

(同上委員)

指導をしているかまではわからないが、小学生よりも中学生の方がしっかりしていて、ドライバー側としては気持ちがいい。

(委員自由発言)

高校は弁当持参だが、中学校は給食が出ていた。弁当は冷たくなってしまいが、給食は温かいのでおいしかった。

(委員自由発言)

赤湯中学校では、朝横断歩道に中学生が立って「交通安全ありがとう運動」をやっていた。今もやっている。何年前に赤湯小学校の児童が交通事故に遭ったことがあり、それを防ぐために実施している。ドライバーへのお礼もその運動の一環。

(委員自由発言)

今の中学生は昔に比べて地域行事への参加が盛んだと感じる。ちょうど明日明後日に宮内地区で一番大きな祭りがあるが、宮内小学校、宮内中学校、南陽高校の生徒たちが学校として多く参加する。自分が中学生だったころは学校として参加するようなことはなかったので、地域行事への参加が積極的に行われていることを実感する。

(委員自由発言)

今回の会議に参加するにあたって各中学校のホームページを見てきた。どの中学校もしっかりとしたページがあり、地元根差した教育(伝統行事の話や働く人の話を聞くなど)を実施していることが分かった。

(石井コーディネーター)

次回からは意見を紙に記入していただくが、紙に書くとなるとどうしても自分ひとりの考えを出すことになる。先ほどの横断歩道の話のように、一人の意見から盛り上がっていくことはこれだけの人数が集まって話すことの醍醐味だと考える。マイクを使って発言していただいていることから、ぱっと話すことができずもどかしい部分もあるかもしれないが、みんなが気付くことができるようなこと、連鎖するようなことを言うだけでいい。設備の話からスタートしているが、地域の話に展開しているのが面白いと思う。他にも思いつくことや思い出したことがあればどうぞ。地域別に考えると、赤湯、宮内とこれまでに出ているので沖郷中のことを教えていただける方がいれば。

(委員自由発言)

沖郷中では全校で縦割り班ごとに行う芋煮会がある、また文化祭で学年ごとに劇をするといった伝統的な行事が残っている。

(石井コーディネーター)

伝統行事を守る、また地域の学習を行っている事例といえるだろう。他にも、これが自慢だといえるようなことはないか。

(委員自由発言)

沖郷では生徒が田んぼで米を作っていたと思う。

(委員自由発言)

赤湯中の一年生と三年生が祭りで神輿を担いだ。

(石井コーディネーター)

それは学年全員で参加する？それとも希望者？もしくはいくつか担ぐ？

(同上委員)

学年全員で担ぐ。

(石井コーディネーター)

好きな人だけが参加するのは聞くことがあるが、学校として参加するのは珍しいように感じる。

(委員自由発言)

参加したことがないため詳細はわからないが、沖郷中では地域のためにボランティアを行うサークルがある。

(委員自由発言)

毎年シェルターで合同音楽会を開催している。

(委員自由発言)

赤湯中でも最近ボランティアサークルを立ち上げている。赤い羽根共同募金などを行っている。(委員自身も参加した)

(石井コーディネーター)

実は私は赤い羽根共同募金の担当をしているが、最近自治会が協力してくれなくて困っている。

(委員自由発言)

今はどうかかわからないが、約 20 年前の宮内中では Save The Earth Project というボランティア活動をやっていた。具体的には地域の清掃活動などを行っていた。

(委員自由発言)

赤湯中ではクリーン作戦というものがあり、中学生と小学生が一緒になって赤湯のまちの中をきれいにしていった。

(石井コーディネーター)

これは毎年実施？毎月実施？

(同上委員)

年に一回実施していた。

(委員自由発言)

宮内中では、各クラス対抗で合唱コンクールを実施しており、生徒が伴走や指揮を担当し、学年の中で優秀賞と全体の最優秀賞を決めていた。

(委員自由発言)

学事奨励会というものがあり、地域の方から寄付を集めている。集まった資金は部活の遠征費用などに充てている。

(石井コーディネーター)

今朝、南陽市の市報を見たところ、細かい寄付の情報まで載っていた。他の市町村ではあまり見ないので驚いた。

(委員自由発言)

沖郷中では生徒が中心となってペットボトルのキャップを回収して寄付に繋げる運動を実施していた。

(委員自由発言)

赤湯中学校の文化祭では、地域の方が講師となって十種類ほどの講座を開催してくれていた。

(石井コーディネーター)

文化祭というと、学生が中心となって実施する印象があるが、文化祭の中に地域の方が加わって中学生に対して教える部分があるという事例を挙げていただいた。

(委員自由発言)

給食の時に地元で作られた農産品が出るだけではなく、誰が作っているかがわかるようになっていて、子どもたちだけではなく、親もこんなものが出ているんだなということが伝わってくる。出てきていた農産物はシャインマスカットが挙げられる。

(委員自由発言)

文化祭の時に地域の方が講師となってくれるのは赤湯中だけではなく宮内中でも同様の取り組みがあった。沖郷中では文化祭の前日に同様の取り組みがあった。よさこいソーランの発表もあった。

(石井コーディネーター)

市内の中学校と地域とのつながりがたくさん見えてきた。また思いついたら発言していただきたい。いいところが一通り出てきたので、続いては中学校、中学生の課題について意見をいただきたい。次

回のテーマにもなるが、今回も先に触れたい。しかしながら、今すぐに考えるには限界があるため、次回の会議までにもっと考えてきていただきたい。今回参加したことで、皆さんが中学校、中学生を見る目に変化があるはず。ご家族やご友人にもこれらの課題について聞いていただければと思う。そうすると次回の議論がより活発になると思う。出しにくいとは思いますが、よりよくするために意見をいただきたい。

(委員自由発言)

宮内中は部活に強制参加で、毎日参加するのが大変な生徒もいたのではないかと思った。さらに、部活の選択肢が少なかったように感じた。

(委員自由発言)

校則に納得がいかないことがあった。その校則が設けられている理由に納得がいかないこともあった。これが原因で学校生活への不満につながることもあると思う。

(石井コーディネーター)

全国的にブラック校則なども話題になっており、生徒と学校で話し合っ作り直そうとする動きもみられる。

(委員自由発言)

赤湯中が古くて物が壊れやすい。ガラスが割れたこともある。

(委員自由発言)

赤湯中の校舎が古いことについて、トイレが臭いことも挙げられる。今までは全部和式で、昨年くらいに洋式になったが、そもそも臭いというのが改善されていない。

(石井コーディネーター)

人によってはこれだけでも学校に行きたくなくなることもあるので、大事なことだといえる。

(委員自由発言)

合同行事で三校集まることはいいが、みんなで話すような個別の生徒同士での関わりがないので交流の機会になっていない。

(石井コーディネーター)

これまでに出不い意見として、先生のことについてはいかがだろうか。

(委員自由発言)

顧問の先生が専門知識を持ち合わせていない。詳しいことを知っている先生に受け持っていたきたい。

(石井コーディネーター)

生徒が一生懸命で専門の知識もあるのに、先生が知らないというギャップが生まれている部分があるのは推察できる。

(委員自由発言)

地域の人と部活とのかかわりが必要だと感じていて、交流の場を設けるべきだと思う。

(石井コーディネーター)

逗子市でも中学校は三校あり南陽市と同じ状況だが、野球部は二校、サッカー部は一校しかなく、学外の専門的なところでスポーツをする生徒が増えている。生徒の数が減っていることと生徒が学外に抜けていくことが重なり、部活の数が減っていく。

(委員自由発言)

一日に何時間までという部活の時間制限を緩和してほしい。

(石井コーディネーター)

ここが課題だという部分について前倒しで触れたが、今日はこのくらいにしておこうと思う。最初の説明でも伝えたが、例えば「毎日部活がある」ことについて「毎日部活があることで本当に自分が好きなことややりたいことができない」から課題だと捉える人もいれば、「毎日部活があっていい」と課題だとは捉えていない人もいる。それぞれが思う課題を個人の意見としてで全く問題ないので考えてきてほしい。その課題をどう解決すればいいのかについても少し考えてきていただければと思う。

(全体会議終了)

全体についての質問等はなし。次回は 8/20(日)の 13:30 からスタートする。場所は同じくシェルターなんようホールの展示ギャラリーで行う。

以上